

---

窓

紗凧

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
窓

【Nコード】  
N8007Y

【作者名】  
紗凧

【あらすじ】  
揺れる電車の中に僕はいる。その女は例えるなら夢だと僕は思っている。

彼女はまるで夢だ。夜の闇にとけている。

揺れる電車の中で、僕はその女を見ている。目を見ている。その目も、ただ無言で僕のほうに向けられている。彼女は夜の闇にとけている。窓ガラスの薄い、それでいてはてしなく大きな壁の向こうで、あるいは中で、その像は僕の目を見つめていて、僕も彼女を見つめている。手をのばせば届きそうな距離なのに、透明な黒を浮かべた冷たいガラスに阻まれて、彼女のぬくもりは永遠に感じる事ができない。彼女はあくまで半透明で、僕はいつまでもここにいるのだ。そしてとりには、女がいる。

その女も、窓に映る僕の目を見ているのだろうかと思案する。僕と、窓の彼女の視線が交差しているということは、その女の視線上にも僕のすがたがあるということだ。僕の像はいつたいどのような意味を抱えてそこにあるのだろうか？ 彼女にとって、その像は、「ただある」ものとしてたまたまそこに存在してしまっているものなのか、あるいは、なにか目的があつて意識的に僕に焦点をあわせているのか。僕には分からない。その女のことは、僕はなにも知らないし、分からないのだ。僕が理解しているのは、窓に映る彼女のことだけだ。僕は彼女についてならすべてを知っている。そもそも僕の想像こそが、彼女に関する情報そのものになるのだから、僕が彼女について知らないことなんて存在しえないのだ。

彼女のとりには僕の像がある。車内はこみあつていて、窓には多くの人々の像が、細かく揺れるスクリーンにおとされた影のように定まった形を持たないまま映っている。そして僕はそのひとつひとつの情報を知ることが、あるいは、与えることができる。彼らは、僕とは無関係ななにかだ。ただ僕の像だけはちがう。彼に意味を与えたり、その情報を認識したりすることは、僕にはできない。それは彼らの役割であり、その資格みたいなものを、僕は持ちあわせて

いないのだ。僕は僕の像についてなにひとつ知りえないのだ。

意識を彼女に戻す。彼女は言うまでもなく、僕にとって特別だ。僕と無関係な「なにか」でありながら、僕と無関係であってほしくないものだ。もちろん、原理的に、互いの状況の無関心さが失われることはない。僕は僕であり、彼女は彼女だ。そのあいだには戦時中の国境よりも厳格な線がもうけられている。あるいはあの窓が。それでも僕の一部であってほしいと僕はひそかに願う。窓の向こう彼女の像の向こうで流れる景色がどれほどまばゆい光を放つても、新たな夜が沈めば彼女は夢としてまたそこに現れる。しかしどれほど深い闇に包まれようと、夢は夢のままであり、現実に変えることはない。彼女についてあらゆる想像を巡らせようと、となりにいる女のなにかを知ることがはげつたいにできない。彼女はどこまでもどこかしい微妙な距離をたもっている。それは近くて遠い、あの窓に映る像との距離そのものだつた。

車内はこみあっている。こんな日の夜には、不埒な人間が現れることもしばしばある。彼女の後ろには 奥には 鼻息を荒らげた中年の男がいる。歪んだ口元からは黄ばんでいるであろう歯が顔をのぞかせていて、右手は彼女の下半身を蛭のようにまさぐっている。その手は彼女に隠れてここから見ることはできないけれど、少し前から羞恥の色を必死で殺している彼女の表情と男の顔を見れば、その動きとそれに伴う感覚のひとつひとつを想像することはたやすい。まわりで、おのおのの世界に没頭している彼らは気づかない、気づいている者もいるのかもしれないが、あくまで無関係を装っている。そして僕は、窓に映るその像をただ棒のように眺めている。彼女は夢で、僕の手は窓に映るその女を救うことができない。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8007y/>

---

窓

2011年11月23日20時50分発行